取扱説明書

EF3500
EF4500
EF6000E
EF6000TE

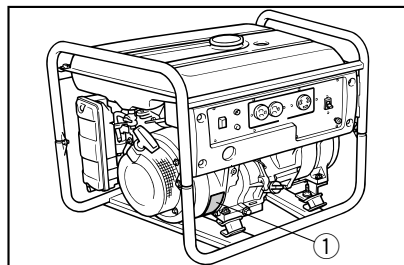
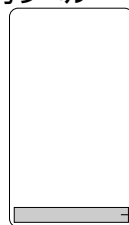
ご使用前に、かならず取扱説明書・本体ラベルをお読みになり、内容を理解してからお使いください。

331184
7WV-28199-01

本体識別番号

● **本体識別番号**

商品名、本体識別番号（識別番号ラベル①）等は問い合わせや部品を注文するときのために記入してください。

万一の盗難時のために商品名、識別番号は他の資料にも記録しておいてください。

商　品　名	
識 別 番 号	
購入年月日	年　　月　　日
	電話

お客様ご相談窓口のご案内

お買い上げいただきました商品についてのお問い合わせ・ご相談は下記の「お客様相談窓口」へお願いいたします。

ヤマハ モーターパワープロダクツ㈱
パワープロダクツ事業部　マーケティング部　サービス課
〒436-0084　静岡県掛川市逆川200-1　☎0537(27)1518

【ご注意】

1. 土曜、日曜、祝日、年末年始は休業させていただきます。
   その他夏期等休業させていただく場合があります。
2. 区画整理、電話局の新増設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますのであらかじめご了承ください。

定期点検・整備ご相談窓口のご案内

ヤマハ商品の定期点検および整備に関しましては、同梱のヤマハ発電機サービス店にご遠慮無くご用命ください。

【ご注意】

1. 整備はサービス店へのお持込みを原則とします。
2. 現地整備の場合には別途出張料金を申し受けます。
3. 土曜、日曜、祝日、年末年始、その他夏期等休業させていただく場合があります。
4. 区画整理、電話局の新増設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますのであらかじめご了承ください。

目次

安全にお使いいただくために　必ずお守りください。

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書とその付属書類、および商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。

⚠警　告（行為を禁止する警告文）

- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。
- 排気ガス中毒のおそれあり、排気ガスがこもる場所で使用しないでください。排気ガスは一酸化炭素など有害成分を含んでいますので室内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク、マンホールなど換気の悪い場所や建物や遮へい物で風通しの悪い場所等の排気ガスがこもる場所で使用しないでください。
- 商品の周囲を囲ったり、箱をかぶせて使用しないでください。
- やけどのおそれあり、使用中や使用直後はマフラ部が熱いのでマフラやマフラ周辺のプロテクタには手足を直接触れないでください。
- 火災のおそれあり、給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 感電、火災のおそれあり、電力会社の電気配線に接続しないでください。接続しますと電気器具や商品の故障、または火災や電気工事関係者の感電事故の原因となります。
- 感電のおそれあり、ぬれた手で商品を操作しないでください。
- 感電のおそれあり、コンセントにピンや針金などの金属物を差し込まないでください。
- 感電やけがのおそれあり、運転中は点検整備を行なわないでください。
- 感電やけがのおそれあり、改造したり、部品を取り外したまま使用しないでください。

⚠警　告（行為を指示する警告文）

- 商品を他人に貸すときは、必ず取扱説明書もいっしょに貸してください。
- 排気ガス中毒や火災のおそれあり、排気口を建物や設備から１メートル以上離して使用してください。
- 火災のおそれあり、燃料の給油はエンジンを停止してから行なってください。燃料のガソリンは、高い引火性と爆発性がありますので、取り扱いは十分注意してください。特にエンジン始動前には、ガソリンの漏れがないことを確認してください。
- 火災のおそれあり、給油時にこぼれた燃料は布きれなどできれいにふき取ってください。
- 燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石鹸と水でただちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合には、ただちに医師の診察を受けてください。

安全にお使いいただくために　必ずお守りください。

⚠注 意（行為を禁止する注意文）

- けがのおそれあり、傾斜させて使用しないでください。
- けがのおそれあり、運転中は移動させないでください。
- けがのおそれあり、商品の回転部に棒や針金を入れないでください。
- 感電のおそれあり、運転中はスパークプラグに触らないでください。
- 感電のおそれあり、雨や雪の中で使用しないでください。
- 感電、けがのおそれあり、子供に使用させないでください。
- 感電、けがのおそれあり、エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。
- 火災のおそれあり、商品の周囲や下に危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすい物（枯れ草、わらくず、紙くず、木くずなどの可燃物）を置かないでください。
- 火災のおそれあり、定格出力を超えた過負荷で使用しないでください。

⚠注 意（行為を指示する注意文）

- 火災のおそれあり、燃料の種類と規定容量を守って使用してください。
- 商品を自動車などで運搬する場合には、倒れないようにしっかり固定してください。
- 毎回使用前に行なう始業点検や定期点検は必ず実施してください。
- 使用中に音、臭気、振動などの異常を感じたら、直ちにエンジンを停止して販売店もしくはサービス店の点検を受けてください。

環境への配慮

将来、廃棄される場合および廃油等の廃棄処理をされるときは、環境保護のためお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

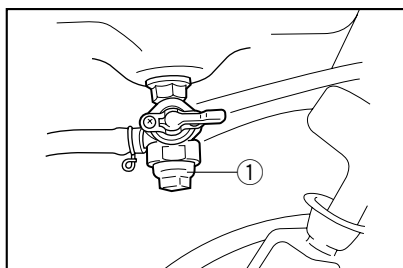
保管・格納

● 保管

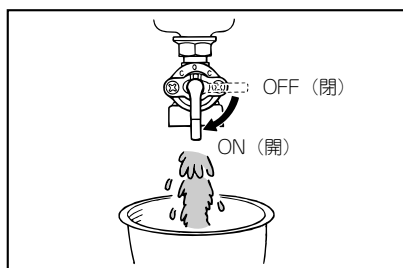
使用後、または定期運転後次回の使用が 3 ヶ月以降になる場合は、 1 ～ 8 の作業を行なって保管し、次に使用する時に備えてください。

⚠注　意

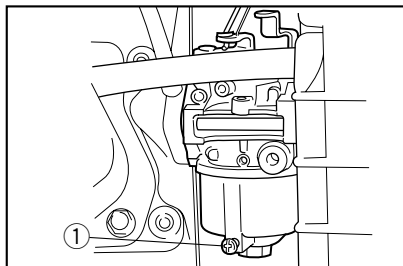
実施しないとキャブレタ内の燃料が変質して、エンジンの始動が困難になる場合があります。

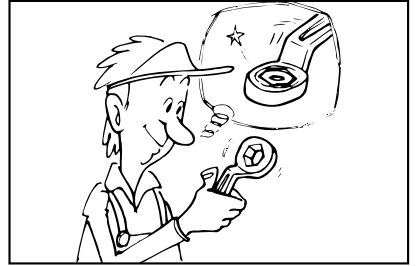
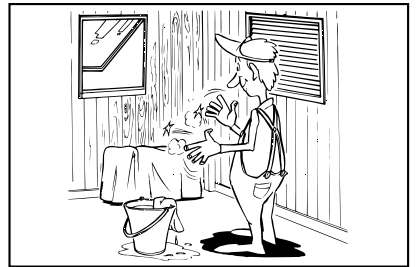
1. エンジンを停止します。
2. 燃料コックのストレーナカップ①を外します。

3. 燃料コックのレバーをOFF（閉）からON（開）にして完全に燃料タンク内の燃料を抜きます。

⚠注　意

こぼれた燃料はただちに布きれ等で完全にふきとってください。

4. キャブレタのドレンスクリュ①をドライバ⊕で弛めて燃料を抜きます。

⚠注　意

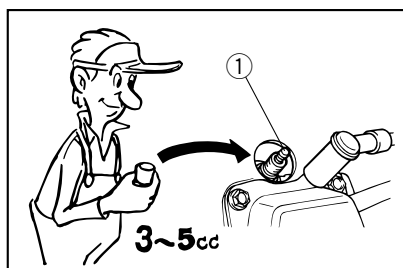
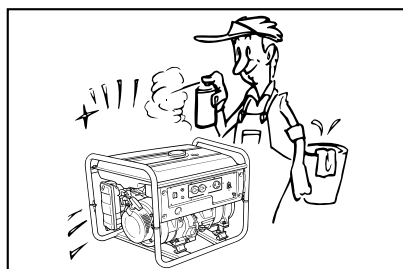
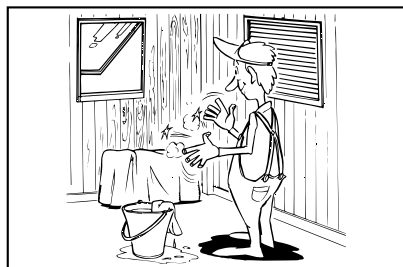
こぼれた燃料はただちに布きれ等で完全にふきとってください。

5. ドレンスクリュを締め付けます。
6. ストレーナカップを締め付けます。

7. ゆるみがあれば各ボルト・ナットを増し締めします。

8. 室内で湿気が少なく換気のよい場所に保管します。

保管・格納（つづき）

● **格納**

長期間にわたって使用しない場合は、次のことを行なって格納し、次に使用する時に備えてください。

1. 保管項目の1～7の作業を行ないます。

2. スパークプラグ①をはずしプラグ孔より2サイクルオイルを3～5cc給油します。
3. スタータロープを2～3回引いた後、スパークプラグを取り付けます。
4. スタータロープを引き重くなった状態（圧縮状態）にします。

5. 各部をきれいに清掃して防錆処理をします。

6. 発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気のよい場所に保管します。

運搬

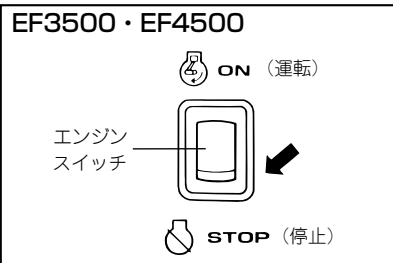
発電機を自動車・トラック等の車両で運搬する場合は、次の項目を守ってください。

⚠警　告

- **振動、衝撃等で燃料タンクの燃料（ガソリン）がこぼれるおそれがありますので、燃料タンクに燃料を給油したまま運搬しないでください。**
- **燃料（ガソリン）が気化して引火するおそれがありますので、発電機を車内やトランク等に積載したまま、長い時間直射日光の当たる場所に放置しないでください。**
- **火災のおそれがありますので、予備の燃料（ガソリン）は鉄製の携帯タンクに保管してください。**

⚠注　意

発電機の上に重い物を置かないでください。

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）にします。

2. 燃料タンク内の燃料（ガソリン）を抜きます。

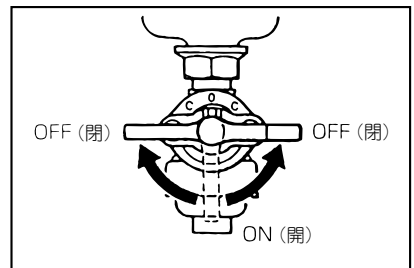
要　　点

燃料タンクキャップは確実に締め付けてください。

3. 燃料コックをOFF（閉）にします。

4. 発電機をロープ等で確実に固定します。

要　　点

発電機が移動、転倒、落下、破損等しないような位置に積載してください。

重要ラベル

商品本体に貼付されているラベルすべてを熟読し正しくご使用ください。

要　点

ラベルは常に手入れを行ない、破れたりはがれたりした場合は販売店にご相談して、ただちに新しいものと交換してください。

⚠警　告 ラベル

①

⚠ 警　告

火災や爆発のおそれあり
- 給油中はエンジン停止のこと。
- ガソリン給油中に火気を近づけないこと。
- こぼれたガソリンは完全に拭き取ること。
- 燃料は赤レベル（規定量）以上入れないこと。
- 可燃物のそばで使用しないこと。
- 建物・設備に排気を向けないこと。

排気ガス中毒のおそれあり
- 屋内など換気の悪い場所で使用しないこと。
- 人・建物・設備に排気を向けないこと。

感電や火災のおそれあり
- 電力会社からの電気配線に接続しないこと。

感電のおそれあり
- 雨や雪の中で使用しないこと。
- コンセントに濡れた手でさわらないこと。

ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで安全にお使いください。

7TA-24162-01

②

⚠警　告

やけどのおそれあり、マフラーにさわらないこと。　高温注意

7RA-28176-00

⚠注　意 ラベル

③

⚠注　意

感電のおそれあり、スパークプラグにさわらないこと。　高電圧注意

7RA-2415A-00

その他ラベル

④取扱要領

EF3500・EF4500

取扱要領

始動　1.オイルとガソリンを点検し、燃料コックを開く。
2.エンジンスイッチを“ON”にする。
3.チョークを操作する。
4.スターターロープを勢いよく引く。
5.エンジン始動後、チョークを戻す。

停止　1.エンジンスイッチを“STOP”にする。
2.燃料コックを閉じる。

7NJ-24156-01

EF6000E・EF6000TE

取扱要領

始動
1. オイルとガソリンを点検し、燃料コックを開く。
2. ＜電動スタート＞
エンジンスイッチを “START” の位置にし、エンジンを始動させ、“ON” の位置に戻す。
＜手動スタート＞
エンジンスイッチを “ON” に合わせ、スターターロープを勢いよく引き、エンジンを始動させる。

停止
1. エンジンスイッチを “STOP” にする。
2. 燃料コックを閉じる。

7RH-24156-00

⑤排気方向

排 気 方 向

796−2415E−00

⑥識別番号ラベル（P１参照）

各部の名称（EF3500）

①燃料タンクキャップ
②燃料残量計
③燃料タンク
④フレーム
⑤オイル警告ランプ
⑥交流コンセント
⑦交流スイッチ
⑧アース端子
⑨出力ランプ
⑩エンジンスイッチ
⑪オイル警告装置
⑫オイルプラグキャップ
（オイル注入口）
⑬オイルドレンボルト
⑭キャブレタ
⑮エアクリーナ
⑯リコイルスタータハンドル
⑰チョークレバー
⑱燃料コック
⑲スパークプラグ／
スパークプラグキャップ
⑳ドレンスクリュ
㉑マフラ
㉒ストレーナカップ

⑫
⑬
⑱
㉒
スパークプラグ
スパークプラグキャップ
OHV
⑭
⑳
⑩
⑤
⑨
⑥
⑦
⑧
ON
STOP
15A
15A
30A
交流 ～
～ 交流スイッチ
| ON
ON
○ OFF

各部の名称（EF4500）

①交流スイッチ
②交流コンセント
③燃料タンクキャップ
④燃料残量計
⑤マフラ
⑥アース
⑦オイルプラグキャップ
（オイル注入口）
⑧ドレンボルト
⑨パイロットランプ（緑色）
⑩エンジンスイッチ
⑪オイル警告ランプ（赤色）
⑫燃料タンク
⑬ストレーナカップ
⑭リコイルスタータハンドル
⑮エアクリーナ
⑯燃料コック
⑰スパークプラグ／
スパークプラグキャップ
⑱チョークレバー
⑲キャブレタ
⑳ドレンスクリュ
㉑オイル警告装置

⑯
⑬
⑲
⑳
スパークプラグキャップ
スパークプラグ
⑥

各部の名称（EF6000E）

①交流スイッチ
②交流コンセント
③燃料タンクキャップ
④燃料残量計
⑤マフラ
⑥アース
⑦オイルプラグキャップ
（オイル注入口）
⑧ドレンボルト
⑨パイロットランプ（緑色）
⑩エンジンスイッチ
⑪オイル警告ランプ（赤色）
⑫燃料タンク
⑬セルモータ
⑭リコイルスタータハンドル
⑮エアクリーナ
⑯燃料コック
⑰スパークプラグ／
スパークプラグキャップ
⑱キャブレタ
⑲バッテリ
⑳エコノミーアイドル
スイッチ
㉑オイル警告装置
㉒ストレーナカップ
㉓ドレンスクリュ

⑯
㉒
⑱
㉓
スパークプラグキャップ
スパークプラグ
⑥

各部の名称（EF6000TE）

①交流スイッチ（100V）
②交流コンセント（100V）
③燃料タンクキャップ
④燃料残量計
⑤マフラ
⑥アース
⑦オイルプラグキャップ
（オイル注入口）
⑧ドレンボルト
⑨ドレンスクリュ
⑩エンジンスイッチ
⑪オイル警告ランプ（赤色）
⑫燃料タンク
⑬セルモータ
⑭リコイルスタータハンドル
⑮エアクリーナ
⑯燃料コック
⑰スパークプラグ/
スパークプラグキャップ
⑱ストレーナカップ
⑲バッテリ
⑳エコノミーアイドル
スイッチ
㉑オイル警告装置
㉒電圧計（交流三相200V）
㉓交流スイッチ
（交流三相200V）
㉔交流コンセント
（交流三相200V）
㉕キャブレタ
㉖電圧調整ノブ

おねがい

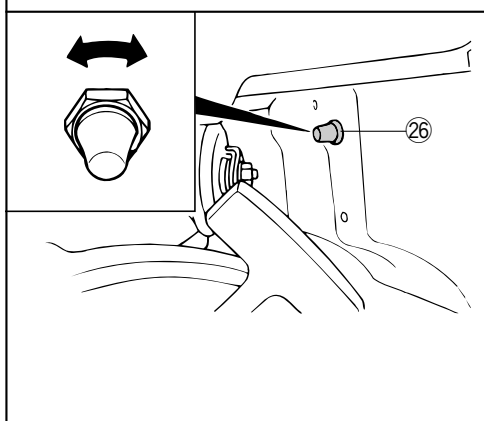
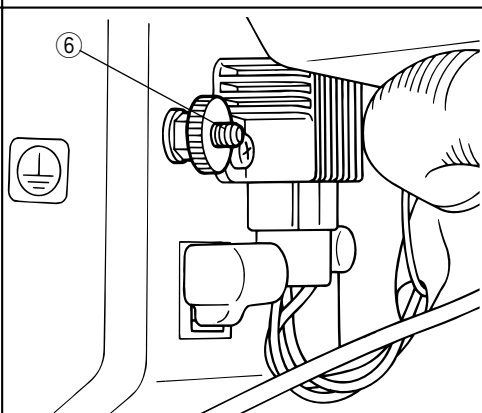
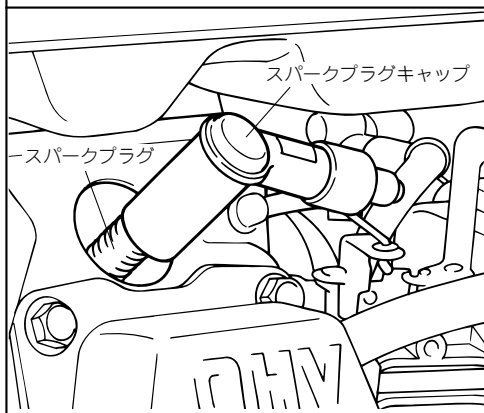
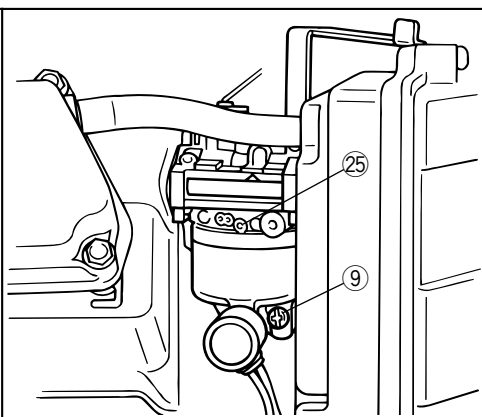
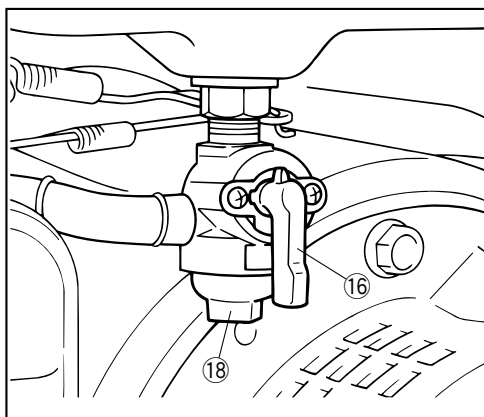
ヤマハ商品をお買上げいただき、誠にありがとうございます。
本書には、商品の安全性に関する情報と商品の正しい取り扱い方法と簡単な点検・調整について説明してあります。
万一、取り扱いを誤まると重大な事故や故障の原因となります。
あなた自身の安全と環境や住民の方との調和のために、また商品の性能を十分に発揮させるために、商品の取り扱いを十分ご存じの方も、この商品独自の装備・取り扱いがありますので、ご使用前に必ず本書を最後までお読みください。なおご使用時には本書を携帯し、安全に商品をご使用くださいますようお願い申し上げます。

＊本書では正しい取り扱いおよび点検・調整に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠安全に係る注意情報を意味しています。

⚠警　告	取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。
⚠注　意	取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要　点	正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

＊仕様変更などにより、本書のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。
＊保証書はよくお読みいただき裏面のお買い上げ日、販売店の記入をご確認ください。
＊本書は大切に保管し、わからないことや不具合が生じたときにお読みください。なお本機の転売や譲渡等をされる場合は必ず添付してください。

⑯
⑱
㉕
⑨
スパークプラグキャップ
スパークプラグ
⑥
OHV
㉖

給油

● **燃料（無鉛ガソリン）の給油**

燃料タンクキャップを外し、燃料（無鉛ガソリン）を赤レベルまで給油します。

燃料タンク内の燃料の残量は燃料残量計により確認できます。

燃料タンク容量

EF3500　15L（赤レベルまで）

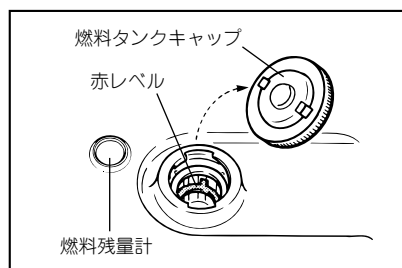
EF4500　18L（赤レベルまで）

EF6000E　18L（赤レベルまで）

EF6000TE　18L（赤レベルまで）

使用燃料

無鉛ガソリン（自動車専用ガソリン）

要　点

- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早目に補給してください。

⚠警　告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発力がありますので、次の事項を必ずお守りください。

- **給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行なってください。**
- **給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また給油ノズルを給油口に当てるなどして静電気が発生しないように注意して行なってください。**
- **燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、ただちに医者の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水でただちに洗い、衣類は取り替えてください。**
- **燃料タンクキャップは確実に締めてください。**

⚠注　意

- **燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷が入らないように注意してください。またこぼれた時は、ただちに布きれ等で完全にふきとってください。**
- **燃料は規定量以上（ストレーナの赤レベル以上）給油しないでください。**

- **エンジンオイルの給油**

購入後は、オイルプラグキャップ①を外し、ヤマハ 4 サイクルオイルを注入口の口元まで給油します。

オイル量

EF3500　1L

EF4500　1.1L

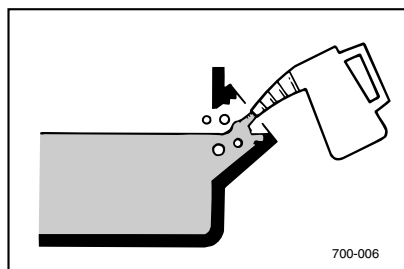
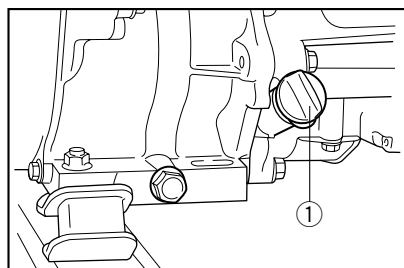
EF6000E　1.1L

EF6000TE　1.1L

使用オイル

ヤマハ4サイクルオイル

API分類SE級エンジンオイル

SAE 10W-30

⚠注　意

工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていません。

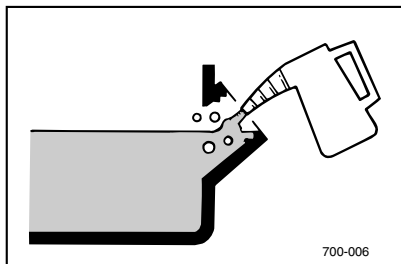
要　点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふきとってください。

各部の取り扱い

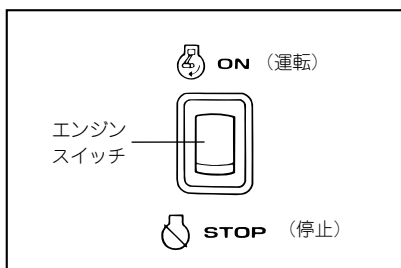
● **オイル警告装置**

エンジンオイル量が少なくなって潤滑不足になる前に、自動的にエンジンを停止させます。
エンジンオイル量が少ない状態でエンジンが停止したときは、リコイルスタータハンドルを引いてもエンジンは始動しません。エンジンオイル量を確認しヤマハ 4 サイクルオイルを注入口の口元まで給油します。

要　点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

● **エンジンスイッチ（EF3500・EF4500）**

点火系統を制御しエンジンの始動、停止を行ないます。

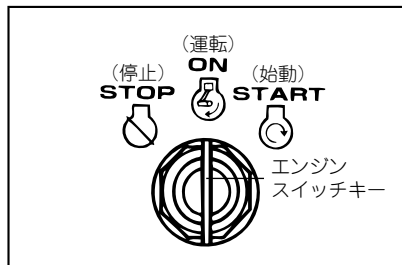
STOP（停止）　ガソリンは流れません。エンジン停止および保管時の位置です。

ON（運転）　エンジン運転時の位置です。

⚠注　意

使用しない時は、エンジンスイッチをSTOP（停止）にしてください。

● **エンジンスイッチ（EF6000E・EF6000TE）**

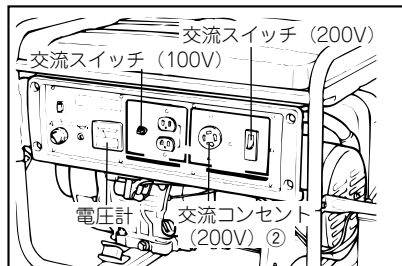
点火系統を制御しエンジンの始動、停止を行ないます。

STOP（停止）	ガソリンは流れません。エンジン停止および保管時の位置です。
ON（運転）	エンジン運転時の位置です。
START（始動）	セルモータが回転し、エンジンが始動します。

- **セルモータを連続して5秒以上回転させないでください。消費電力が多いためバッテリ上がりの原因となります。**
- **使用しない時は、エンジンスイッチをSTOP（停止）にしキーを抜いてください。**

要　　点

始動の位置でエンジンがかかったらエンジンスイッチキーを運転の位置に戻してください。

● **電圧計（EF6000TE）**

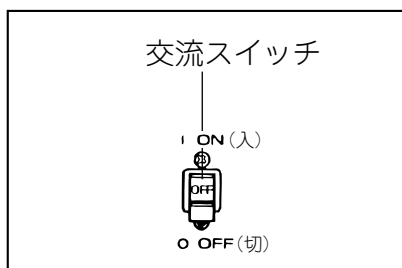
交流（AC）三相200Vの発生電圧を指示します。

各部の取り扱い（つづき）

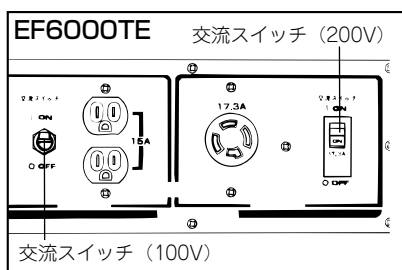
● **交流スイッチ**

ON（入）──交流が取り出せます。

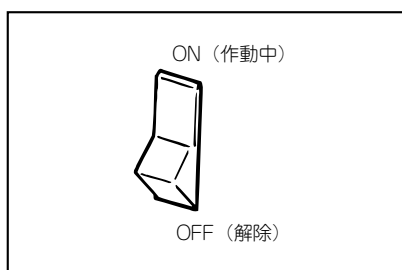
OFF（切）─交流が取り出せません。

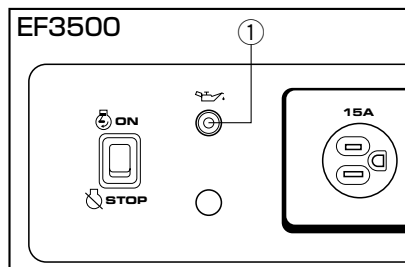
⚠注　意

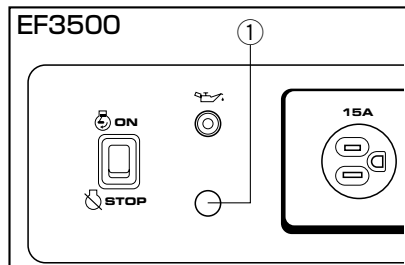
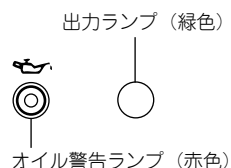
電気機器を使用中に交流スイッチがOFF（切）になる場合は、接続されている負荷を発電機の指定定格出力以内に減らしてください。それでもOFF（切）になる場合はヤマハ販売店に相談してください。

要　　点

電気機器を使用中に定格以上の電流が流れると自動的に交流スイッチはOFF（切）になります。再度使用する場合は交流スイッチをON（入）にしてください。

● **エコノミーアイドルスイッチ**
（EF6000E・EF6000TE）

ON（作動中）　エコノミーアイドル装置が作動します。電気機器を運転すると、自動的に定格回転となり、運転しない時は自動的に低速回転になります。
（EF6000TE単相100Vはエコノミーアイドル装置は作動しません。）

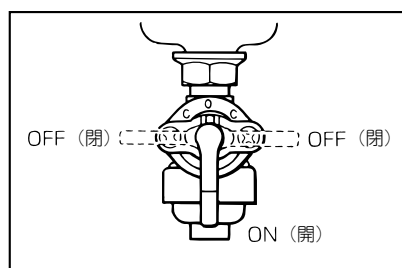
OFF（解除）　エコノミーアイドル装置が解除されます。電気機器の使用の有無にかかわらずエンジン回転は定格回転で運転します。

● **オイル警告ランプ（赤色）**

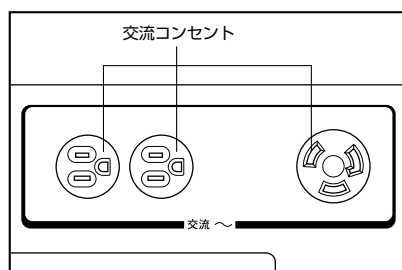
オイル警告ランプ①は運転中にエンジンオイル量が規定以下になると点滅し自動的にエンジンを停止させます。また、始動時にエンジンオイル量が規定以下になっているとリコイルスタータハンドルを引いてもオイル警告ランプ（赤色）①が点滅し、エンジンは始動しません。

● **出力ランプ（緑色）**

出力ランプ①はエンジンを始動し電気が発電されると点灯します。

● **燃料コック**

燃料の流れを制御します。

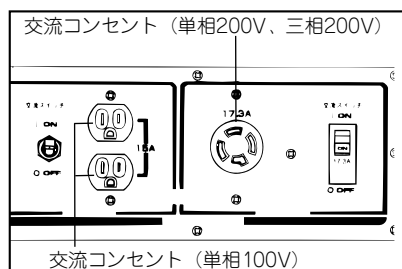
ON（開）―― 燃料は流れます。
始動および運転時のレバーの位置です。

OFF（閉）―― 燃料は流れません。
停止および保管時のレバーの位置です。

● **交流コンセント**
（EF3500・EF4500・EF6000E）

交流（AC）100Vを取りだすことができます。

● **交流コンセント（EF6000TE）**

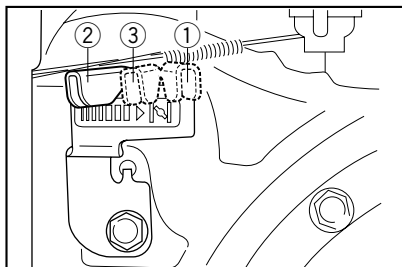
交流（AC）単相100V・単相200Vと交流（AC）三相200Vを取りだすことができます。

⚠注　意

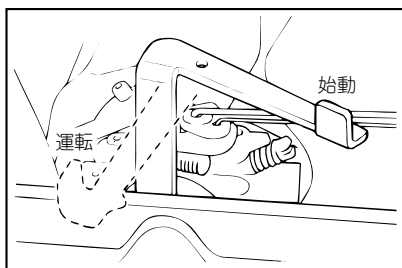
単相100Vと単相200Vと三相200Vを同時に取りださないで下さい。

● **チョークレバー（EF3500）**

始動－エンジンを始動するときのレバーの位置①です。

運転－エンジンを始動後運転するときのレバーの位置②です。

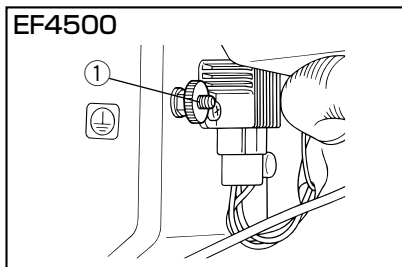
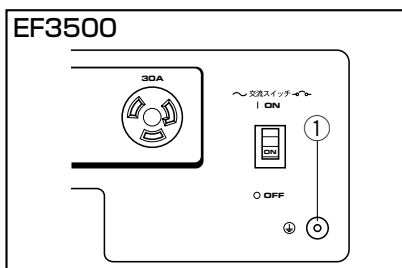
中間－エンジンを再始動するときのレバーの位置③です。

● **チョークレバー（EF4500）**

始動－エンジンを始動させるときのレバーの位置です。

運転－エンジンを運転するときのレバーの位置です。

● **アース**

感電防止のアース線を取り付ける端子①です。

要　点

アース端子①から大地にアースしてください。

● **リコイルスタータハンドル**

エンジンを始動させる時に使用します。

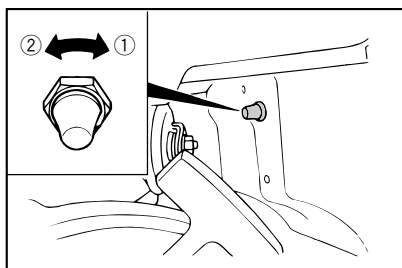
● **携帯工具**

発電機に携帯工具が同梱されています。点検・調整の際にご使用ください。

● **電圧調整ノブ（EF6000TE）**

交流（AC）三相用200Vの出力電圧を160Vから220Vの範囲で変化させることができます。

①出力電圧が上昇します。

②出力電圧が下降します。

始業点検

● **燃料（無鉛ガソリン）の点検**

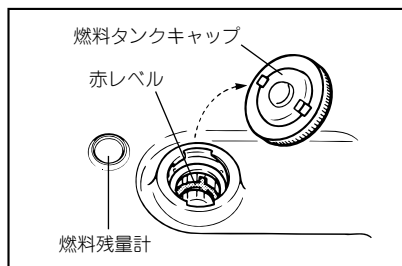
燃料残量計もしくは燃料タンクキャップを外して、燃料の残量を点検します。

燃料タンク容量

EF3500　15L（赤レベルまで）
EF4500　18L（赤レベルまで）
EF6000E　18L（赤レベルまで）
EF6000TE　18L（赤レベルまで）

使用燃料

無鉛ガソリン（自動車専用ガソリン）

要　点

● 燃料はゆっくりと給油してください。
● 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早目に補給してください。

● **エンジンオイルの点検**

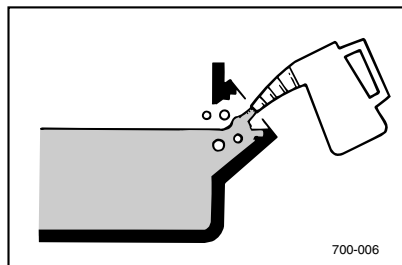
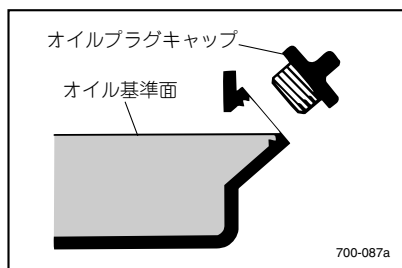
オイルプラグキャップを外してエンジンオイルがオイル基準面まであるか点検します。

エンジンオイルが基準面より少ない場合は、ヤマハ 4 サイクルオイルを注入口の口元まで給油します。

要　点

● エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
● こぼれたエンジンオイルは必ずふきとってください。

● **その他の点検**

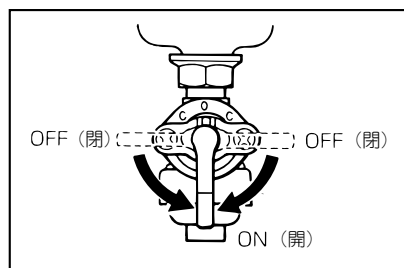
P46を参照してください。

正しい運転操作

● エンジンの始動（EF3500）

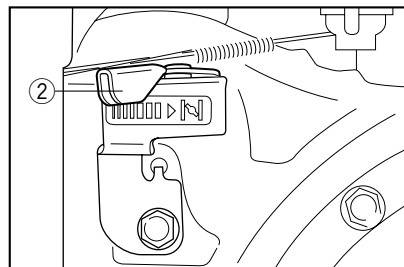
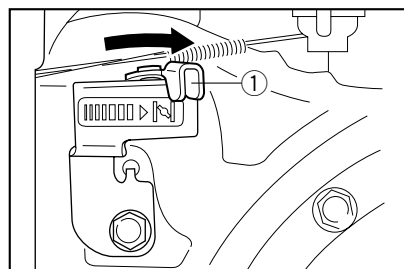
⚠注　意

エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。

1. 燃料（無鉛ガソリン）の量を点検します。

2. 燃料コックをON（開）にします。

3. チョークレバー①を始動にします。

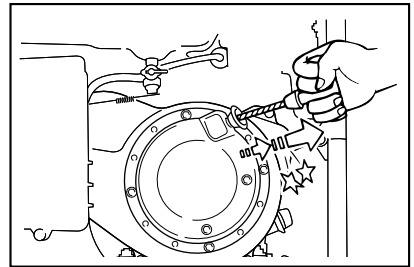
要　　点

エンジンが暖まっている時は、チョークレバーを中間②にします。

4. エンジンスイッチをON（入）にします。

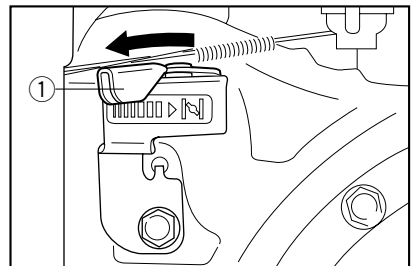
5. リコイルスタータハンドルを軽く引き出します。リコイルスタータハンドルが重くなった状態から勢いよく引きエンジンを始動させます。

⚠注　意

リコイルスタータハンドルを戻す時はゆっくりと戻してください。

要　　点

リコイルスタータハンドルを数回引いてエンジンが始動しない時は、チョークノブを運転にしてリコイルスタータハンドルを引いてください。

6. エンジン回転数が安定したらチョークレバー①を運転にします。

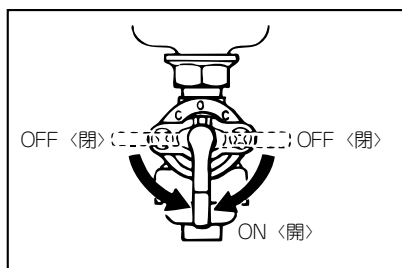
7. しばらく暖機運転します。

正しい運転操作（つづき）

● エンジンの始動（EF4500）

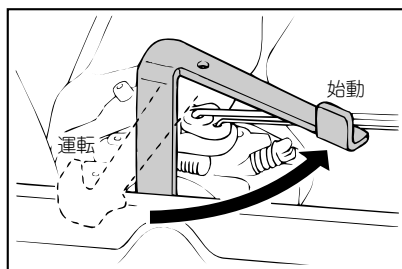
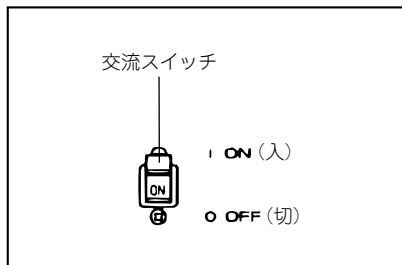
⚠注　意

エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。

1. 燃料（ガソリン）の量を点検します。

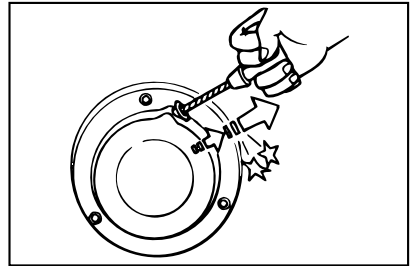
2. 燃料コックをON（開）にします。

3. チョークレバーを始動にします。

要　　点

エンジンが暖まっている時は、チョークレバーを始動にする必要はありません。

4. 交流スイッチをOFF（切）にします。
5. エンジンスイッチをON（運転）にします。

5. リコイルスタータハンドルを軽く引き出します。リコイルスタータハンドルが重くなった状態から勢いよく引きエンジンを始動させます。

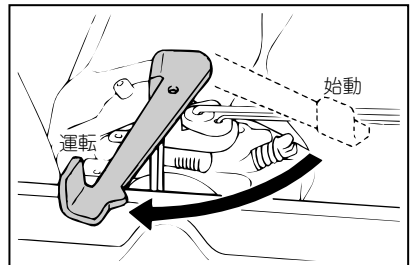
⚠注　意

リコイルスタータハンドルを戻す時はゆっくりと戻してください。

要　　点

リコイルスタータハンドルを数回引いてエンジンが始動しない時は、チョークレバーを運転にしてリコイルスタータハンドルを引いてください。

6. エンジン回転数が安定したらチョークレバーを運転にします。
7. しばらく暖機運転します。

要　　点

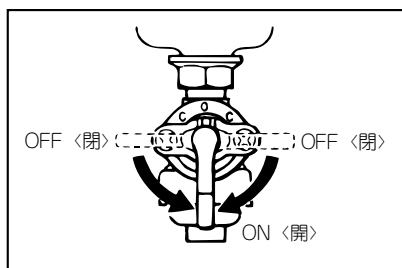
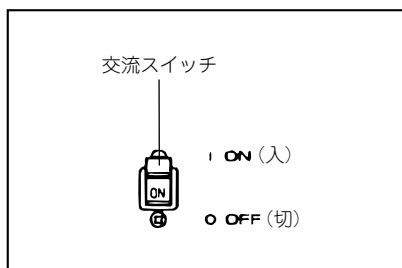
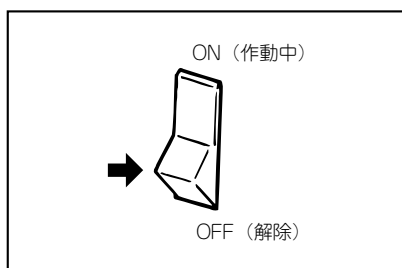
スロットルレバーはありません。この状態で定格出力が得られます。

正しい運転操作（つづき）

● エンジンの始動（EF6000E・EF6000TE）

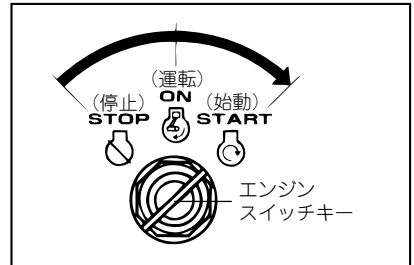
⚠注　意

エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。

1. 燃料（無鉛ガソリン）の量を点検します。

2. 燃料コックをON（開）にします。

3. 交流スイッチをOFF（切）にします。

4. エコノミーアイドルスイッチをOFF（解除）にします。

5. エンジンスイッチをSTART（始動）の位置にして、エンジンを始動させます。

⚠注　意

- **セルモータを連続して 5 秒以上回転させないでください。消費電力が多いためバッテリ上がりの原因となります。**
- **使用しない時は、メインスイッチをSTOP（停止）にしキーを抜いてください。**

要　　点

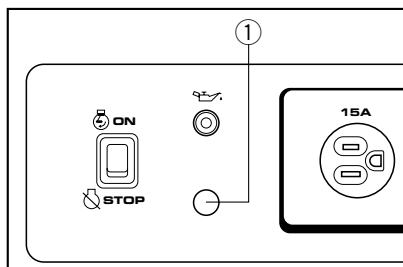
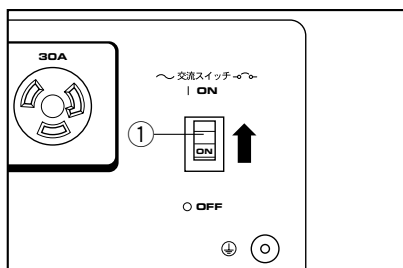
エンジン始動後メインスイッチキーをON（運転）の位置に戻してください。

6. しばらく暖機運転します。

正しい運転操作（つづき）

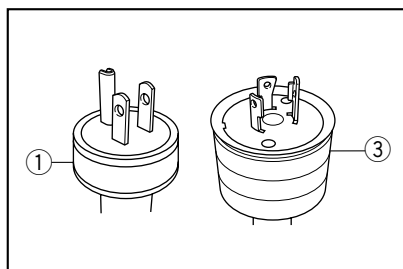
● **交流電源の取りだし方（EF3500）**

1. エンジンを始動させます。

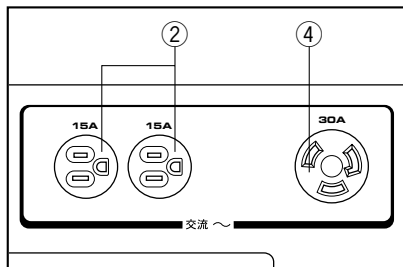
2. 出力ランプ①が点灯していることを確認します。

3. 交流スイッチ①をON（入）にします。

4. 消費電流15A以下の電気器具のプラグ①（アース付 3 本端子）を交流コンセント②に差し込みます。

   2 口合計消費電流　30A（60Hz仕様）
   　　　　　　　　　29A（50Hz仕様）

要　点

電気器具のスイッチがOFF（切）になっていることを必ず確認してから差し込んでください。

5. 消費電流15A以上30A以下（60Hz仕様）もしくは29A以下（50Hz仕様）の電気器具のプラグ③（アース 3 本端子）を交流コンセント④に差し込みます。

要　点

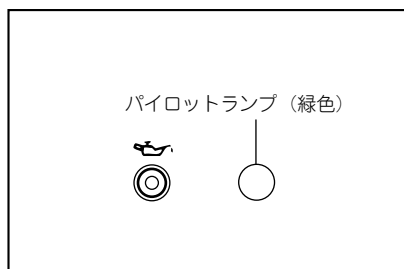
電気器具のスイッチがOFF（切）になっていることを必ず確認してから差し込んでください。

● 交流電源の取りだし方（EF4500・EF6000E）

⚠注　意

- **発電機は接続された電気器具の負荷の変化に合わせて電圧が変化しますので電圧変化に敏感な電気器具は使用しないでください。**
- **接続の可否が不明確な場合は電気器具会社にご相談ください。**

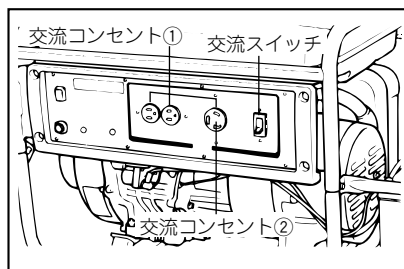
1. エンジンを始動させます。

要　　点

スロットルレバーはありません。この状態で定格出力が得られます。

2. パイロットランプ（緑色）が点灯しているか確認します。

3. 電気器具のプラグを交流コンセント①もしくは②に差し込みます。
   交流コンセント①には消費電流15A以下の電気器具のプラグを差し込みます。
   交流コンセント②には消費電流30A以下の電気器具のプラグを差し込みます。

要　　点

電気器具のスイッチがOFF（切）になっていることを必ず確認してから差し込んでください。

4. 交流スイッチをON（入）にします。

正しい運転操作（つづき）

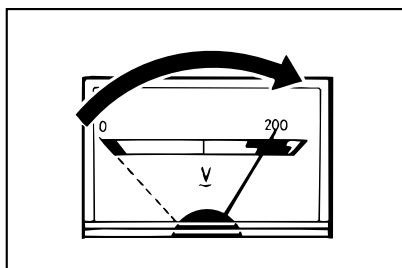
● 交流電源の取りだし方（EF6000TE）

⚠注　意

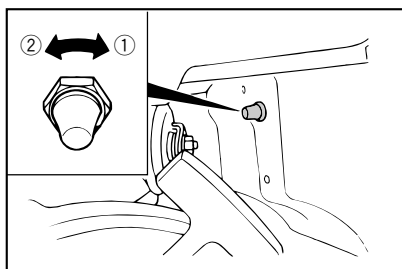
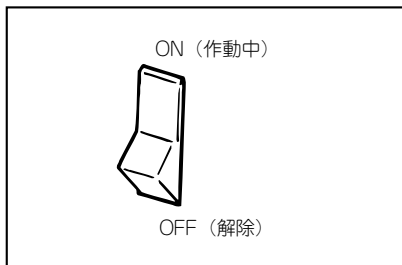
- **発電機は接続された電気器具の負荷の変化に合わせて電圧が変化しますので電圧変化に敏感な電気器具は使用しないでください。**
- **接続の可否が不明確な場合は電気器具会社にご相談ください。**

1. エンジンを始動させます。

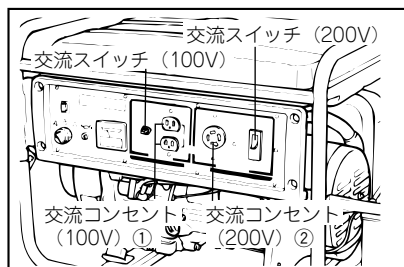
要　　点

スロットルレバーはありません。この状態で定格出力が得られます。

2. 電圧計の針が200Vの黒枠内にあるか確認します。

要　　点

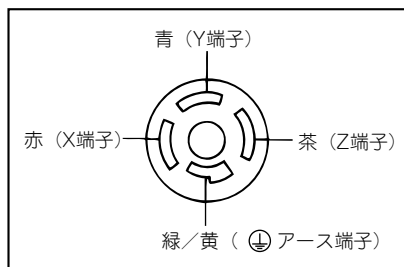
発電機から離れた場所で交流（AC）三相200Vコンセントから取り出せる電気は200V以下になる場合があります。
160Vから220Vまでの範囲で電圧調整ノブを調整してください。
①出力電圧が上昇します。
②出力電圧が下降します。

3. エコノミーアイドルスイッチをON（作動中）にします。
（単相100V使用時は作動しません。）

4. 電気器具のプラグを交流コンセント①もしくは②に差し込みます。

要　　点

電気器具のスイッチがOFF（切）になっていることを必ず確認してから差し込んでください。

交流コンセント①には合計消費電流15A以下の電気器具のプラグを差し込みます。
交流コンセント②には単相200V・三相200Vで消費電流14.4A以下（50Hz仕様）もしくは17.3A以下（60Hz仕様）の電気器具のプラグを差し込みます。

EF6000TEの場合、単相100Vと単相200Vと三相200Vを同時に取りださないで下さい。

要　　点

- 三相200Vの 3 線式はX.Y.Z端子と 4 線式はX.Y.Z.⏚（アース）と接続してください。
- 単相200VはY.Z間に接続してください。
- 交流電源回路図はP63です。

5. 交流スイッチをON（入）にします。

正しい運転操作（つづき）

● **交流電源の使用可能範囲**

交流電源の使用はおおむね次の電気器具の取だし可能範囲まで使用できます。使用する電気器具の消費電力（W）をお確かめの上ご使用ください。

電気器具	取りだし可能範囲		備　考
	EF3500		
	50Hz	60Hz	
照明・電熱器・ラジオ・テレビ・ステレオなど	100V 2900Wまで	100V 3500Wまで	力率＝1
電動工具類	100V 2300Wまで	100V 2800Wまで	力率＝0.8〜0.95
汎用モータ類	100V 1450Wまで	100V 1750Wまで	力率＝0.4〜0.75

⚠注　意

- **電気器具の合計負荷が発電機の取りだし可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。**
- **精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類は電圧に敏感で、携帯用発電機からの電圧より均一の電圧供給を必要とするものがあります。このような機器を使用するときには、販売店に相談してください。**
- **精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ（原動機雑音）の影響を受けない距離を確保してください。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ（原動機雑音）に影響されないことを確認してください。**
- **医療機器への使用は、事前に医療機器会社・医師・病院等に確認のうえご使用ください。**
- **電気工具類・汎用モーター類の一部には取りだし可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使用できないことがあります。この場合は電気器具会社にご相談ください。**

要　　点

取りだし可能範囲を超えた場合、また電気器具に異常があった場合は、交流スイッチがOFF（切）になります。

● **交流電源の使用可能範囲**

交流電源の使用はおおむね次の電気器具の取だし可能範囲まで使用できます。使用する電気器具の消費電力（W）をお確かめの上ご使用ください。

電気器具	取りだし可能範囲										備考
	EF4500		EF6000E		EF6000TE						
	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	50Hz			60Hz			
					単相		三相	単相		三相	
照明・電熱器 ラジオ・テレビ ステレオなど	100V 3,940W まで	100V 4,500W まで	100V 5,000W まで	100V 6,000W まで	100V 1,500W まで	200V 2,880W まで	200V 5,000W まで	100V 1,500W まで	200V 3,460W まで	200V 6,000W まで	力率＝1
電動工具類	100V 3,150W 程度まで	100V 3,600W 程度まで	100V 4,000W 程度まで	100V 4,800W 程度まで	100V 1,200W 程度まで	200V 2,300W 程度まで	200V 4,000W 程度まで	100V 1,200W 程度まで	200V 2,800W 程度まで	200V 4,800W 程度まで	力率＝ 0.8~0.95
汎用モータ類	100V 1,970W 程度まで	100V 2,250W 程度まで	100V 2,500W 程度まで	100V 3,000W 程度まで	100V 750W 程度まで	200V 1,400W 程度まで	200V 2,500W 程度まで	100V 750W 程度まで	200V 1,700W 程度まで	200V 3,000W 程度まで	力率＝ 0.4~0.75

⚠注　意

- **電気器具の合計負荷が発電機の取りだし可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。**
- **精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類は電圧に敏感で、携帯用発電機からの電圧より均一の電圧供給を必要とするものがあります。このような機器を使用するときには、販売店に相談してください。**
- **精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ（原動機雑音）の影響を受けない距離を確保してください。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ（原動機雑音）に影響されないことを確認してください。**
- **医療機器への使用は、事前に医療機器会社・医師・病院等に確認のうえご使用ください。**
- **電気工具類・汎用モーター類の一部には取りだし可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使用できないことがあります。この場合は電気器具会社にご相談ください。**

要　　点

取りだし可能範囲を超えた場合、また電気器具に異常があった場合は、交流スイッチがOFF（切）になります。

正しい運転操作（つづき）

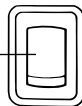
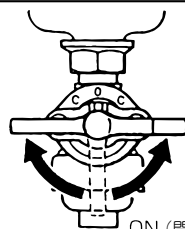
● エンジンの停止（EF3500・EF4500）

1. 電気器具のスイッチ①をOFF（切）にします。

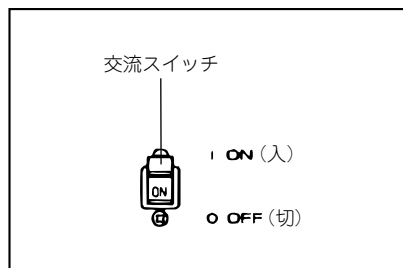
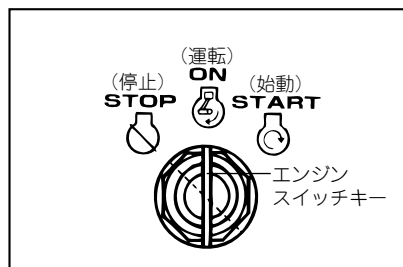
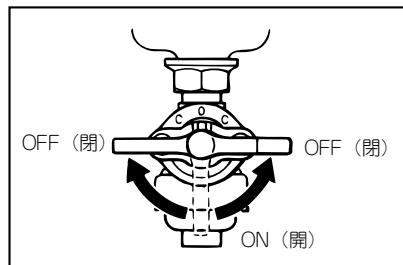
2. 電気器具のプラグをコンセントから抜きます。

3. 交流スイッチをOFF（切）にします。

交流スイッチ
I ON（入）
O OFF（切）

4. エンジンスイッチをSTOP（切）にします。

5. 燃料コックをOFF（閉）にします。

● **エンジンの停止（EF6000E・EF6000TE）**

1. 電気器具のスイッチをOFF（切）にします。
2. 電気器具のプラグをコンセントから抜きます。
3. 交流スイッチをOFF（切）にします。

4. エンジンスイッチキーをSTOP（停止）にします。

5. 燃料コックをOFF（閉）にします。

点検

お客様の安全と、発電機の故障と事故を未然に防ぐために実施してください。

⚠警　告

- **エンジン停止直後は、エンジン本体、マフラ周辺のプロテクタやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。手足で直接触れないでください。
火傷にご注意ください。**
- **排気ガスは、一酸化炭素など有害な成分を含んでいます。換気の悪い場所や、風通しの悪い場所でエンジンを始動しての点検はしないでください。**

⚠注　意

- **始業点検・定期点検を怠ると重大な事故・故障の原因となります。**
- **異状が認められた場合は、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行なってください。**

- **始業点検**

お客様が発電機をご使用するたびに点検を行なってください。

点検箇所に異常がある場合は、販売店で点検・整備をお受けください。

1. 燃料・エンジンオイルの量、燃料の洩れ、エンジンオイルの汚れ
2. 前回の運転で異常が認められた箇所
3. エンジンスイッチの作動具合
4. リコイルスタータの作動具合・スタータロープの損傷
5. エンジンのかかり具合および異音、排気の状態
6. コンセントの損傷
7. バッテリの液量

- **定期点検**

お客様のお申しつけにより、お買い上げの販売店（またはヤマハ発電機サービス店）が実施します。お客様の責任で必ず点検を受けてください。

- **点検項目（始業点検・定期点検のときに以下の項目を点検します。）**

点検整備項目			点検整備時期 始業	6か月毎	12か月毎
電気装置	点火装置	スパークプラグ、電極の焼け具合		○	○
		スパークプラグ、電極の清掃		○	○
	バッテリ	液量	○	○	○
		比重		○	○
	電気配線	高圧コードの損傷		○	○
	ランプ	オイル警告ランプの作動	○	○	○
		出力ランプの作動	○	○	○
原動機	本体	スタータハンドルの作動具合	○	○	○
		スタータロープの損傷	○	○	○
		エンジンのかかり具合および異音	○	○	○
		排気の状態	○	○	○
		圧縮圧力			○
		エアクリーナエレメントの状態		○	○
		カーボン除去（シリンダヘッド部）			○
		バルブクリアランスの測定			○

点検整備項目			点検整備時期 始業	6か月毎	12か月毎
原動機	燃料装置	燃料漏れ	○	○	○
		燃料の量	○		
		チョークの作動具合	○	○	○
		キャブレタの調整		○	○
		フュエルストレーナカップの清掃		○	○
		フュエルパイプの亀裂、損傷		○	○
	潤滑装置	エンジンオイルの量、洩れ	○	○	○
		オイル交換		○	○
発電機	発電装置	過電流保護装置の損傷	○	○	○
		コンセントの損傷	○	○	○
その他	マフラ	マフラの機能			○
		マフラ取付部のゆるみ、損傷		○	○
		スクリーンの清掃		○	○
		本体各部の締付		○	○
		各部の給油脂		○	○

注）「○」印は点検時期を示します。

定期運転・定期交換

格納中であっても発電機を緊急で使用することが予測される場合は、ここに示す定期運転、定期交換を行なって緊急時に備えてください。

- **定期運転**

  1ヶ月に1度定期的に発電機を運転（約10分位）し、電気器具を接続して運転状態を点検してください。

- **定期交換**

  燃料をいつも満タンの状態で保管する場合は、燃料の変質による始動不良を防止するため3ヶ月に1回は燃料タンク内の燃料を交換してください。

⚠注　意

- **本書での指示なき作業等を行なう時にも、必ずエンジンを止めてください。**
- **お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、ヤマハ販売店へ作業を依頼してください。**

交換部品は、必ず純正部品、または指定されたものを使ってください。

● **エンジンオイルの交換**

1. エンジンを始動し2〜3分暖機運転します。
2. エンジンを停止します。

⚠警　告

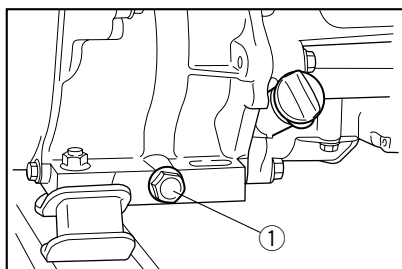
エンジン停止直後は、エンジンオイルが熱くなっていますので、すぐに排出しないでください。

要　　点

- 油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行なうことが義務づけられていますのでヤマハ販売店へご相談ください。
- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

3. オイルドレンボルト①を外します。
4. 発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜きます。

要　　点

初回は20時間目、その後は100時間毎に交換します。

5. オイルドレンボルトを締め付けます。

6. オイルプラグキャップを外して、新しいヤマハ4サイクルオイルを注入口の口元まで給油します。

オイル量

EF3500　1L

EF4500　1.1L

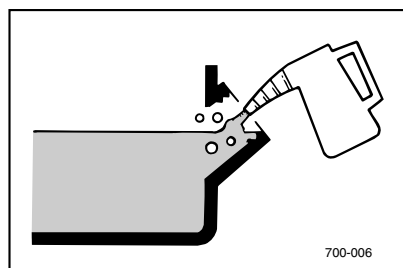
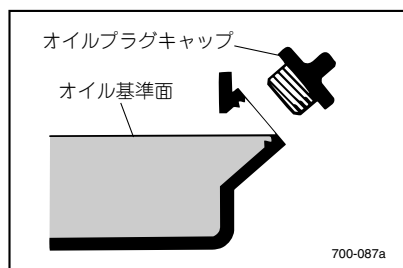
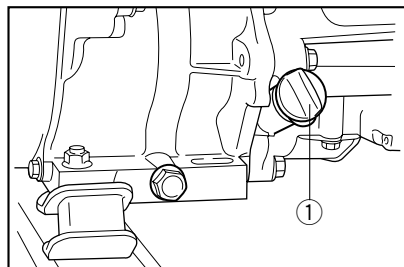
EF6000E　1.1L

EF6000TE　1.1L

使用オイル

ヤマハ4サイクルオイル

API分類SE級エンジンオイル

SAE 10W-30

7. オイルプラグキャップ①を締め付けます。

やさしい点検・調整（つづき）

● **スパークプラグの点検と清掃**

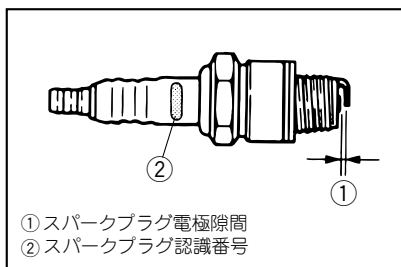
スパークプラグは、点検が簡単な重要部品です。スパークプラグは、徐々に劣化しますので、定期的に外して点検を行なう必要があります。

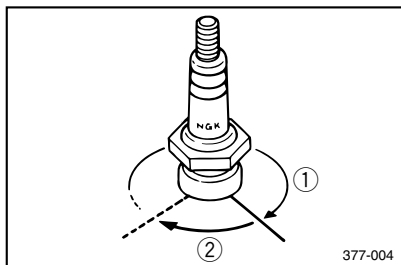
1. エンジンを停止します。
2. スパークプラグを外します。

▲警　告

スパークプラグの脱着の際は、碍子を損傷させないように注意してください。
碍子が損傷すると、電気がもれて火災等を誘発する恐れがあります。

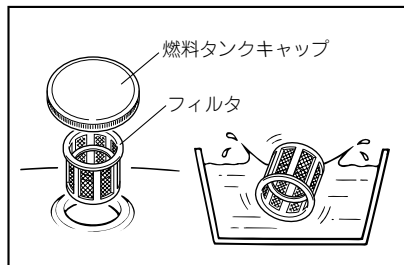
3. スパークプラグの焼け具合を見ます。
   通常はキツネ色に焼けますが黒くくすぶっていたり白く焼けていた時はエアクリーナを点検します。
4. 電極付近の汚れ（カーボン）を落とします。
5. 電極隙間を点検します。
   スパークプラグ　　NGK　BPR4ES
   電　極　隙　間　　0.7～0.8㎜
6. スパークプラグを締め付けます。

①スパークプラグ電極隙間
②スパークプラグ認識番号

要　　点

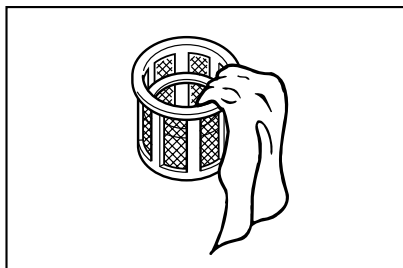
新しいスパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できない時は、指でいっぱいに締め込んだ後①、プラグレンチを使って1／4～1／2回転②更に締め込んでください。
できるだけ早い時期に、トルクレンチを使って正規の値で締めてください。

● **燃料タンクフィルタの清掃**

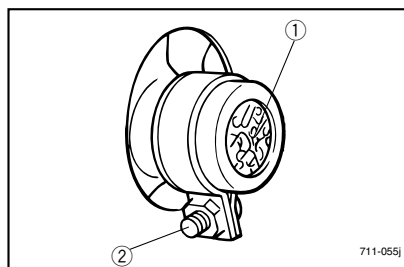
1. エンジンを停止します。
2. 燃料タンクキャップおよびフィルタを取り外します。
3. 溶剤を使ってフィルタを洗浄します。

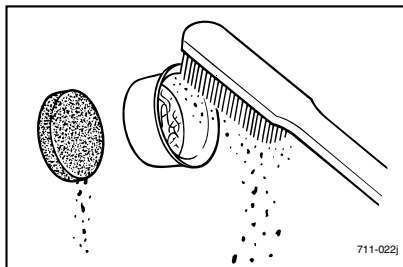
要　点

フィルタが破損している場合は新品と交換します。

4. フィルタを拭いて挿入します。
5. 燃料タンクキャップを取り付けます。

⚠警　告

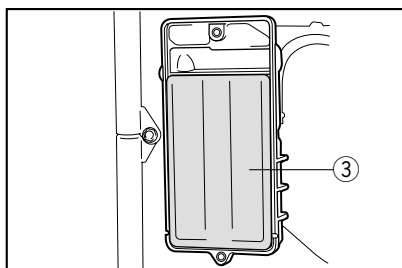
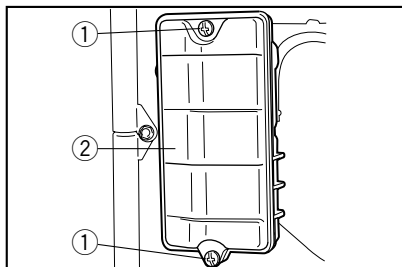
燃料タンクキャップはしっかりと締め付けてください。

● **マフラワイヤネットの清掃**

1. ボルト②をゆるめてマフラキャップとマフラワイヤネット①を外します。

2. ワイヤブラシを利用してマフラキャップとマフラワイヤネットの汚れを取り除きます。

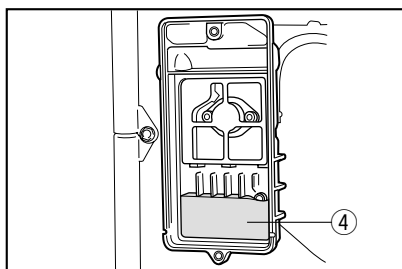
3. マフラワイヤネットとマフラキャップを取り付けます。

● エアクリーナエレメントの清掃（EF3500）

要　点

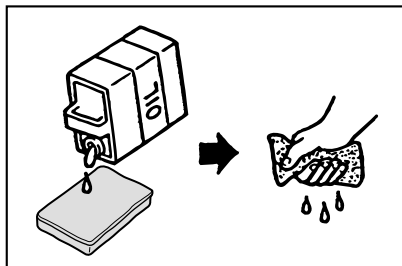
ほこりのひどい場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

1. エンジンを停止します。
2. 取付スクリュ①を弛めます。
3. エアクリーナカバー②を外します。
4. エレメント③を外します。

5. スポンジ④を外し、手で絞り余分なオイルを取り除きます。
6. エレメント③をきれいな洗浄油で洗浄します。

要　点

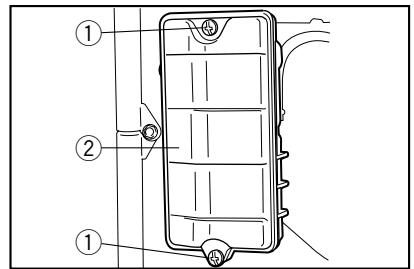
油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行なうことが義務づけられていますのでヤマハ販売店へご相談ください。

7. エレメントをエンジンオイル等にひたし、その後余分なオイルを取り除きます。

⚠注　意

エレメントは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。

8. エレメントをエアクリーナ本体にはめ込みます。

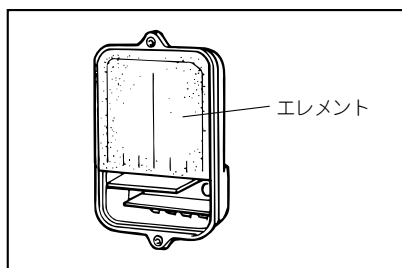
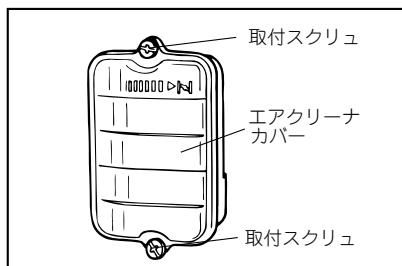
⚠注　意

エレメントを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。

9. エアクリーナカバー②を確実に押し込んで取り付けます。
10. 取付スクリュ①を締め付けます。

● **エアクリーナエレメントの清掃**
（EF4500・EF6000E・EF6000TE）

要　点

ほこりのひどい場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

1. エンジンを停止します。
2. 取付スクリュを弛めます。
3. エアクリーナカバーを外します。
4. エレメントを外します。

5. エレメントをきれいな洗浄油で洗浄します。

要　点

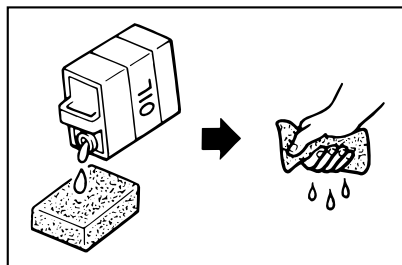
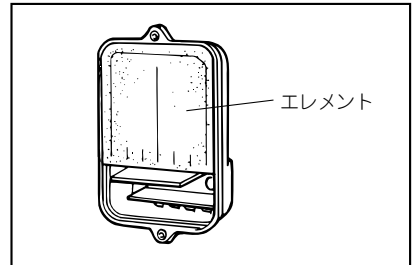
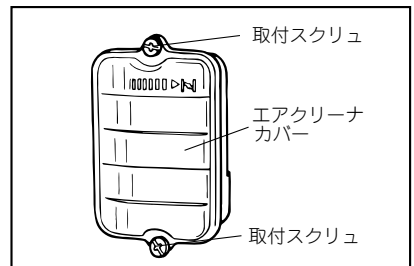
油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行なうことが義務づけられていますのでヤマハ販売店へご相談ください。

6. エレメントをエンジンオイル等にひたし、その後余分なオイルを取り除きます。

⚠注　意

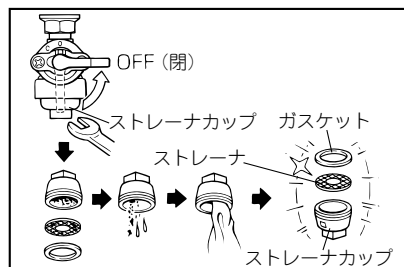
エレメントは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。

7. エレメントをエアクリーナ本体にはめ込みます。

⚠注　意

エレメントを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。

8. エアクリーナカバーを確実に押し込んで取り付けます。
9. 取付スクリュを締め付けます。

● フューエルストレーナの清掃

1. エンジンを停止します。
2. 燃料コックをOFF（閉）にします。
3. ストレーナカップを取り外します。

要　　点

ストレーナカップにゴミがある場合は定期点検時期より早めに清掃してください。

4. ガスケット、ストレーナを取り外します。
5. ストレーナカップ、ストレーナをガソリンで洗浄します。

⚠警　告

タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。

6. ガスケットを点検します。

要　　点

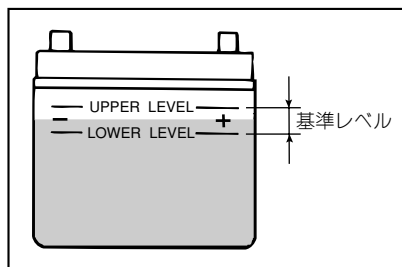
ガスケットが破損している場合は新品と交換します。

7. ストレーナ、ガスケットおよびストレーナカップを取り付けます。
8. 取付後は燃料漏れがないことを確認します。

⚠警　告

取り付けが悪いと燃料もれをおこし、火災や爆発の原因になる恐れがあります。

● バッテリ液の点検（EF6000E・EF6000TE）

1. バッテリの液面が基準レベル内にあるか確認します。
2. 液面が基準レベルより下がっている場合は蒸留水を補給します。
3. キャップの排気孔につまりがないか確認します。

比重	1.28

警　告

- **バッテリの取り扱いにご注意ください。**
- **バッテリは引火性ガスを発生しますので、取り扱いを誤ると爆発や大けがをすることがあります。（特に保守・点検・充電・ブースターケーブル使用時には、危険のないように取り扱ってください。）**
  - **○火気厳禁……ショートやスパーク、たばこ等の火気を近づけないでください。＜爆発＞**
  - **○通風のよい所で……閉めきった場所での使用や充電は危険です。＜爆発＞**
  - **○バッテリ液は希硫酸……皮膚・目・衣服につくと危険です。＜火傷・失明等＞**
- **規定以外のバッテリは使用しないでください。**
- **応急手当**
  - **■万一、バッテリ液が皮膚・衣服についた時は多量の水で洗い流してください。**
  - **■目に入った時はただちに多量の水で15分以上洗い医師の治療を受けてください。**

要　点

定期的に比重を測定しバッテリの状態を確認してください。

故障診断

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは取り扱いの不慣れや点検の不十分に起因しています。故障が生じた時はヤマハ販売店にご相談ください。

下記には最も考えられる故障を選びその想定される原因を列記しました。故障診断が不安な時は、できるだけそのままの状態でヤマハ販売店に連絡し専門技術者にご相談ください。

● エンジンが始動しない

1. 燃料系統（燃焼室に燃料が供給されていない）

燃料タンクが空になっている..........................燃料を補給する。
燃料パイプが目詰まりしている......................燃料パイプを清掃する。
または販売店に相談する。
燃料コックに異物が混入している..................燃料コックを清掃する。
または販売店に相談する。
キャブレタが目詰まりしている......................キャブレタを清掃する。
または販売店に相談する。

2. 電気系統（火花不足）

スパークプラグが汚れている..........................スパークプラグを乾燥させて清掃する。
スパークプラグにカーボンが付着している ...カーボンを除去する。
点火系統が不良..販売店に相談する。
セルモーターが回転しにくい
（EF6000E・EF6000TE）...........................バッテリの容量不足、販売店に相談する。

3. 圧縮系統（圧縮不足、洩れ）...............................販売店に相談する。
4. 潤滑系統（オイル不足）

リコイルスタータを引くかもしくは
セルスタータを作動させるとオイル
警告ランプが点滅する ....エンジンオイルを補給する。

● 電気が出ない

交流スイッチがOFF（切）になっている.......交流スイッチをON（入）にする。

仕様諸元

名　称			EF3500
形式			2極回転界磁形単相交流発電機
電圧調整方式			コンデンサ補償式
励磁方式			自己励磁式
力率			1.0
発電機	交流	定格周波数	50Hz/60Hz
		定格出力（単相100V）	2.9kVA/3.5kVA
		定格電圧	100V
		定格電流（単相）	29A/35A
装備	駆動方式		エンジン直結
	交流コンセント		3個
	交流過電流保護装置		N.F.B
	直流コンセント		無
	直流過電流保護装置		無
エンジン	エンジン種類		空冷４サイクルガソリンエンジン
	調速機形式		遠心重錘式
	冷却方式		強制空冷
	点火方式		T.C.I. 点火
	スパークプラグ		NGK・BPR4ES
	プラグギャップ		0.7〜0.8㎜
	エアクリーナ方式		半湿式（ウレタンフォーム）
	総排気量		251㎖（251㎤）
	使用燃料		無鉛ガソリン（自動車用ガソリン）
	潤滑方式		強制飛沫式
	使用潤滑油		API分類SE級エンジンオイル（SAE 10W-30）
	使用潤滑油容量		1,000㎖
	始動方式		リコイル式
燃料タンク容量（赤レベル）			15ℓ
定格連続運転時間（赤レベル）			9.3時間（50Hz）／7.0時間（60Hz）
乾燥重量			58kg
全長×全幅×全高			580×510×510㎜
騒音レベル（7m）			67dB（50Hz）／69dB（60Hz）
バッテリメーカー／型式			―

＊この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。
＊騒音レベルは7m・4方向測定の平均値です。

名　　称			EF4500	EF6000E	EF6000TE
形式			2極回転界磁形単相交流発電機	2極回転界磁形単相交流発電機	2極回転界磁形単相交流発電機
電圧調整方式			コンデンサ補償式	A.V.R式	A.V.R式
励磁方式			自己励磁式	自己励磁式	自己励磁式
力率			1.0	1.0	1.0
発電機	交流	定格周波数	50Hz/60Hz	50Hz/60Hz	50Hz/60Hz
		定格出力（単相100V）	3.8kVA/4.5kVA	5.0kVA/6.0kVA	1.5kVA/1.5kVA
		定格電圧	100V	100V	100V
		定格電流（単相）	38A/45A	50A/60A	15A/15A
		定格出力（三相200V）	無	無	5.0kVA/6.0kVA
		定格電圧	無	無	200V
		定格電流（三相）	無	無	14.4A/17.3A
装備	駆動方式		エンジン直結	エンジン直結	エンジン直結
	交流コンセント		3	3	3（単相2、三相1）
	交流過電流保護装置		N.F.B	N.F.B	N.F.B
	直流コンセント		無	無	無
	直流過電流保護装置		無	無	無
エンジン	エンジン種類		空冷 4 サイクルガソリンエンジン		
	調速機形式		遠心重錘式		
	冷却方式		強制空冷		
	点火方式		T.C.I. 点火		
	スパークプラグ		NGK・BPR4ES		
	プラグギャップ		0.7～0.8mm		
	エアクリーナ方式		半湿式（ウレタンフォーム）		
	総排気量		301mℓ（301㎤）	357mℓ（357㎤）	
	使用燃料		無鉛ガソリン（自動車用ガソリン）		
	潤滑方式		強制飛沫式		
	使用潤滑油		API分類SE級エンジンオイル（SAE 10W-30）		
	使用潤滑油容量		1,100mℓ		
	始動方式		リコイル式	リコイル式＋セルモータ式	リコイル式＋セルモータ式
燃料タンク容量（赤レベル）			18ℓ	18ℓ	18ℓ
定格連続運転時間（赤レベル）			約7.7時間/約6.5時間	約6.9時間/約5.6時間	約6.9時間/約5.6時間
乾燥重量			71kg	90kg	90kg
全長×全幅×全高			670×510×510mm	894×520×510mm	894×520×510mm
騒音レベル（7m）			71dB(A)/73dB(A)	72dB(A)/74dB(A)	72dB(A)/74dB(A)
バッテリメーカー/型式			—	GS-26A19R	GS-26A19R

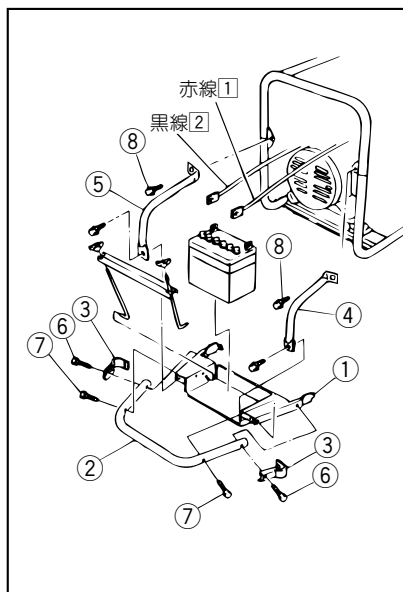
＊この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。
＊騒音レベルは7m・4方向測定の平均値です。

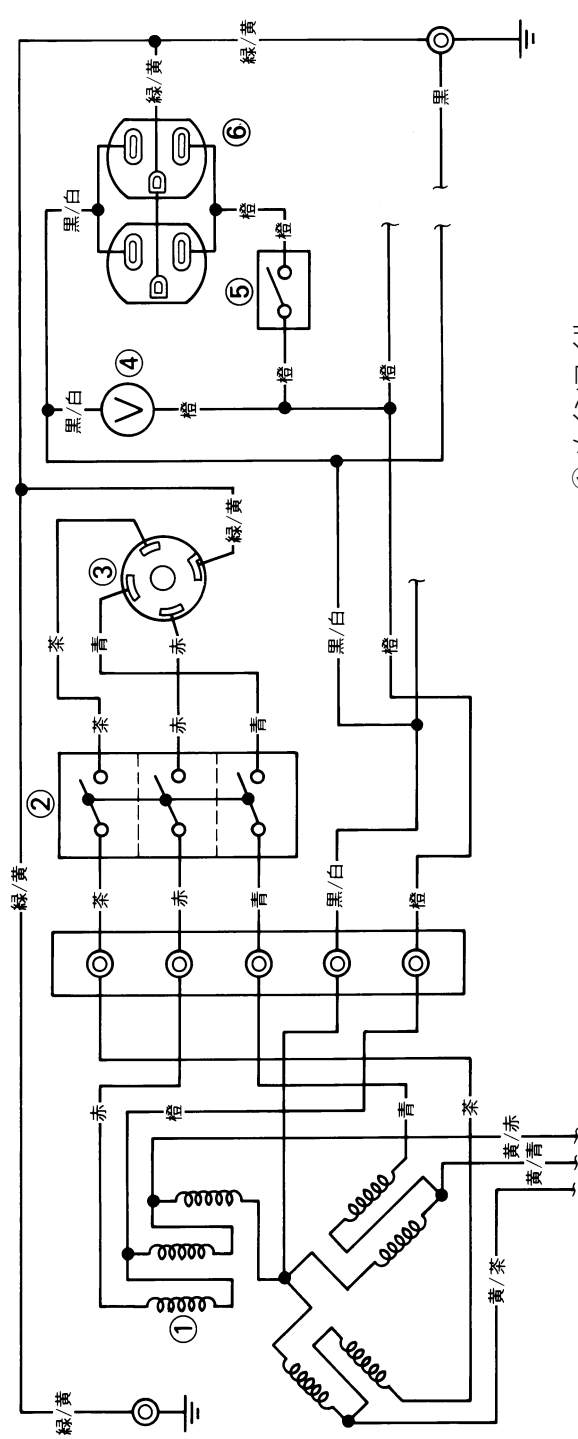
バッテリ・バッテリトレイの取り付け要領

- **バッテリ・バッテリトレイの取り付け要領**

1. バッテリトレイを発電機本体に取り付けます。
   (①~⑧の部品を取り付けます。)
2. バッテリをバッテリトレイに載せます。
3. 赤線[1]をバッテリ⊕端子に接続します。
4. 黒線[2]をバッテリ⊖端子に接続します。

▲警　告

- **バッテリの取り扱いにご注意ください。**
- **バッテリは引火性ガスを発生しますので、取り扱いを誤ると爆発や大けがをすることがあります。(特に保守・点検・充電・ブースターケーブル使用時には、危険のないように取り扱ってください。)**
  - ○ **火気厳禁……ショートやスパーク、たばこ等の火気を近づけないでください。<爆発>**
  - ○ **通風のよい所で……閉めきった場所での使用や充電は危険です。<爆発>**
  - ○ **バッテリ液は希硫酸……皮膚・目・衣服につくと危険です。<火傷・失明等>**
- **規定以外のバッテリは使用しないでください。**
- **応急手当**
  - **■万一、バッテリ液が皮膚・衣服についた時は多量の水で洗い流してください。**
  - **■目に入った時はただちに多量の水で15分以上洗い医師の治療を受けてください。**

No.	部品名称	個数
①	バッテリシート	1
②	ステー5	1
③	カバーサイド1	2
④	ステー6	1
⑤	ステー7	1
⑥	ボルトフランジ 35㎜	2
⑦	ボルトフランジ 30㎜	2
⑧	ボルトフランジ 12㎜	4

交流電源回路図

① メインコイル
② 交流スイッチ（三相200V）
③ 交流コンセント（三相200V）
④ 電圧計
⑤ 交流スイッチ（単相100V）
⑥ 交流コンセント（単相100V）

索引